

東京都立大学 大学院課程教育

「課程の修了の認定に関する方針」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針」

プログラムの名称: 人文科学研究科 社会行動学専攻

.1.課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー:DP）

..(1)取得できる学位

〈社会学分野〉

博士前期課程：修士（社会学）

博士後期課程：博士（社会学）

〈社会人類学分野〉

博士前期課程：修士（社会人類学）

博士後期課程：博士（社会人類学）

〈社会福祉学分野〉

博士前期課程：修士（社会福祉学）

博士後期課程：博士（社会福祉学）

..(2)取得できる資格

① 修了することで取得できるもの

中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状をすでに取得しているものが、本学大学院博士前期課程を修了と同時に免許状の授与申請をすれば、中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状を取得することができます。

〈社会学分野、社会人類学分野〉

中学校教諭専修免許状（社会）、高等学校教諭専修免許状（公民）

② 修了することで受験資格を得られるもの

該当なし

③ 別に定められた課程を修めることで取得できるもの

該当なし

④ 修了することで一部の試験科目が免除になるもの

該当なし

..(3)育成する大学院生像

現代社会、とりわけ都市の高度情報ネットワーク社会という新たな状況の下で、産業、交通、文化の諸領域において、社会構造とその変動を歴史的・理論的に解明するとともに、他文化との比較研究を行い、国際化や少子高齢化にともなうさまざまな社会的課題に対応しうる政策的研究への期待と要請はますます高まっています。そのような情勢にあって、現場のフィールドワークを中心とする調査研究とそれを裏付ける理論的・歴史的研究の融合・調和は今日急務の課題です。本専攻は博士前期課程、後期課程ともにそれらの課題に学際的に取り組む大学院生の養成を目標としています。修了後は大学・研究機関・民間企業・NGO

等において研究者または高度な専門知識を持つ実務家として活躍しうる大学院生を養成します。

..(4)プログラムの特色

急激に変化する現代社会や大都市において発生しているさまざまな現象や課題について、理論的かつ実践的に学ぶことができます。社会行動学専攻には、次の3つの分野があります。

社会学分野では博士前期課程、後期課程ともに、急激に変動する現代社会において、社会変動の動向やそこで生起する様々な社会問題に対し、理論的かつ実証的にアプローチすることができ、なおかつそうした知識を問題の解決や改善のために実践的に活用することのできる研究・教育者を養成することを第一の目的にしています。実際、東京都立大学に1955年に設置されて以来約半世紀に亘って、東京という大都市圏のみならず地方における大小の都市の社会変動と社会問題に対する実証的な調査研究を行なってきた歴史ももっています。また、本教室の都市社会学分野における位置は非常に大きく、研究者も多数輩出してきました。

社会人類学分野の教育目的は、東京都立大学における1953年の教室創立以来、一貫して日本における社会（文化）人類学の専門的教育研究者の育成です。それと共に近年では、アジア、アフリカ、オセアニアなどの地域の実情に関する豊富な知識を身につけ、開発・援助や国際交流などの分野で活躍する専門的職業人の養成にも力を注いでいます。このような目的達成のために、つぎのような教育目標を設定しています。まず、博士前期課程では人類学一般の知識の向上とともに、将来のフィールドワークに備えて調査地域の選定、当該地域に関する広範な文献研究を勧め、その基礎に立って修士論文指導を行う。博士後期課程進学後は、1-2年にわたるフィールドワークを実行するために、当該地域の文献研究の深化、調査計画書の立案などの個別指導を行います。調査後の院生に対しては、収集資料の整理、学会誌への投稿論文、そして課程博士論文の提出を目標とした指導を行います。

社会福祉学分野では、経済のグローバル化や情報化、少子高齢社会の到来等による時代の要請を強く受けている社会福祉学の各領域に関して、高度な専門知識と技能を身につけた研究・教育者養成を主眼とします。具体的には制度・理念、政策形成・評価、援助技術の開発・評価、調査方法を講義・演習で学びます。あわせて、前期課程では研究・教育能力を有する専門的職業人の養成にも力を注いでいます。また、社会福祉学の学際性を鑑み、社会福祉学にとどまらず、広く社会科学・人間科学の方法と視点を基礎に、文献研究の深化と調査計画書作成等の方法論を重視する指導を、前期・後期課程を通じて行います。

..(5)専門知識及び研究開発その他の能力

社会行動学専攻の修了生は、博士前期課程、後期課程ともに社会学分野・社会人類学分野・社会福祉学分野のいずれかを修了して、それぞれの分野固有の高度な知識・理解及び技術を研究成果として獲得すべきものとします。

〈社会学分野〉

社会学の基礎概念と諸理論を踏まえ、現代社会や都市の抱える諸問題を、サブカルチャー

論、ジェンダー論、コミュニティ論、エスニシティ論、社会階層論など多様な視点から考察する高度な能力を獲得します。

〈社会人類学分野〉

社会人類学の理論と方法論を踏まえ、世界各地の諸民族の環境・政治・経済・社会・文化の特色を理解し、それをグローバル世界の文脈において理解する能力を獲得する。生活様式や価値観の多様性や創造性を世界的な比較的視野からとらえ、過去・現在・未来にわたる人類のあり方を考察する高度な能力を獲得します。

〈社会福祉学分野〉

経済のグローバリゼーションや情報化、少子高齢社会の到来等に伴う生活環境の変化をふまえ、社会福祉問題を総合的に把握し、それに対応する社会保障・社会福祉の制度・政策、あるいは調査・支援方法等に関する高度な専門的知識と技能の獲得に努めます。あわせて、高い倫理観をもって社会に主体的に関与する自覚と論理的思考力を培います。

..(6)修了要件

〈1〉修了要件

①博士前期課程

2年の在学期間を満たし、正規の授業を受け、博士前期課程専攻所定の授業科目について30単位以上を修得し、さらに学位論文を提出し、かつ、最終試験を受けなければなりません。

ただし、人文科学研究科教授会において必要と認めた場合は、上記30単位のうち、10単位以内に限り、人文科学研究科の他の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修し、これを充当することができます。

なお、本研究科在学生在が修了要件を確認する場合は、必ず「履修案内・授業概要」を参照してください。

②博士後期課程

3年の在学期間を満たし、正規の授業を受け、博士後期課程専攻所定の授業科目について20単位以上を修得し、さらに学位論文を提出し、かつ、最終試験を受けなければなりません。

なお、本研究科在学生在が修了要件を確認する場合は、必ず「履修案内・授業概要」を参照してください。

〈2〉学位論文審査基準

博士前期課程及び博士後期課程において、以下の基準により所定の単位を修得し、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対しては、それぞれ当該課程を修了したものと認め、学位を授与します。

「修士学位論文審査基準」

① 大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、当該大学院の行う修士論文の審査及び試験に合格しなければなりません。

② 修士論文および同審査においては、当該分野及び隣接諸分野における広い視野に立った精深な学識と、その専攻・分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要高度の能力を有することが証明されなければなりません。

「博士学位論文審査基準」

- 1 研究テーマが明確である。
- 2 研究テーマに関する先行研究が十分に精査され、その知見が踏まえられている。
- 3 論文で用いる方法論が具体的に提示されている。
- 4 研究の素材となるデータ（文献、資料、調査など）を十分に吟味している。
- 5 結論に至る議論の展開が十分な論拠に支えられ、論理的である。
- 6 当該分野の学術研究の進展に貢献する、独創性を備えた研究である。
- 7 研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。

2.教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー:CP）

（1）教育課程編成の基本方針

社会学・社会人類学・社会福祉学の理論と方法論に関する専門的な知識・理解及び技術、人文社会科学全体に共通する幅広い教養としての知識・理解を身につけると同時に、コミュニケーション能力、情報活用能力、総合的問題思考力、論理的思考力、能動的学習姿勢、倫理観・社会的責任の自覚、異なる文化・社会への理解力を修得するために、分野ごとに次のように教育課程が編成されています。

【博士前期課程】

〈社会学分野〉

1年次には「社会調査法研究演習」「都市社会学研究演習」「社会問題研究演習」「社会学基礎理論研究演習」「社会問題研究」「都市社会学研究」「社会調査法研究」「社会学基礎理論研究」「学外演習」等の科目を履修することで、社会学の先行研究と今日の研究動向を学び、社会学の理論と方法論を総合的に学習することができます。

2年次には、修士論文執筆予定者を対象とする「修士論文指導」を履修する。修士論文の構想発表をおこなうこの演習科目では、全教員による添削指導を受けることができます。また、指導教員毎のゼミ形式と個人指導形式による指導をふまえて、修士論文を執筆します。

〈社会人類学分野〉

1年次には「社会人類学第一研究演習」「社会人類学第二研究演習」文化人類学研究演習」「地域論研究演習」「民俗学研究演習」「民族誌学」「民族誌学研究演習」などの演習科目を履修することで、社会人類学とその隣接分野（民俗学・地域研究）の先行研究と今日の研究動向を学び、社会人類学の理論と方法論を総合的に学習することができます。

2年次には、修士論文執筆予定者を対象とする演習科目「社会人類学一般演習」（必修科目）を履修する。修士論文の構想発表をおこなうこの演習科目では、全教員による添削指導

を受けることができます。また、指導教員毎のゼミ形式と個人指導形式による指導をふまえて、修士論文を執筆します。

必修科目「学外実習」は最終年次に履修し単位を取得することが望ましい。履修申請した年度に各自が日本を含む世界の特定地域に赴き、長期の調査を実施します。実施した後、調査報告を作成し、その報告内容に対して、全教員の評価をもって単位認定します。

〈社会福祉学分野〉

1年次には、社会福祉学の専門的知識・理解をふまえ、演習や研究会等において論理的思考力や情報活用能力を培います。社会福祉関連の多様な情報収集・分析を行い、修士論文等に活用できる能力を育てます。国際的視野に立ち、留学生等の受講生の要望に即して、異なる文化的背景を持つ人・地域への理解を深める機会提供を個別指導で行います。他学部からの進学者には学部科目履修を推奨します。後期課程進学希望者には、外書購読の受講等で語学力と論理的思考力を伸ばせるよう配慮します。

2年次には、修士論文執筆予定者を対象とする演習科目「社会福祉学特別演習」で、修士論文の構想発表を行います。この演習科目では、全教員による指導を受けることができます。あわせて、指導教員毎の演習・個人指導によって、修士論文を執筆します。

【博士後期課程】

〈社会学分野〉

1年次には「社会調査法特論演習」「都市社会学特論演習」「社会問題特論演習」「社会学基礎理論特論演習」「社会問題特論」「都市社会学特論」「社会調査法特論」「社会学基礎理論特論」「学外演習」等の科目を履修することで、社会学における国内外の重要文献を精読し、社会学の専門研究者にもとめられる高度な専門知識・文献研究（レビュー）能力・調査研究能力を修得することができます。

2年次ならびに3年次には、博士論文執筆予定者を対象とする「博士論文指導」を履修する。学会誌投稿論文ならびに博士論文の構想発表をおこなうこの科目では、全教員による添削指導を受けることができます。指導教員毎のゼミ形式と個人指導形式による指導をふまえて、博士論文を執筆します。

〈社会人類学分野〉

1年次には「社会人類学第一特論演習」「社会人類学第二特論演習」文化人類学特論演習」「地域研究特論演習」「民俗学特論演習」「民族誌学特論」「民族誌学特論演習」などの演習科目では、社会人類学とその隣接分野（民俗学・地域研究）における国内外の重要文献の精読を通じて、社会人類学の専門研究者にもとめられる高度な専門知識と文献研究（レビュー）能力を修得することができます。

2年次ならびに3年次には、博士論文執筆予定者を対象とする演習科目「社会人類学総合演習」（必修科目）を履修する。学会誌投稿論文ならびに博士論文の構想発表をおこなうこの演習科目では、全教員による添削指導を受けることができます。また、指導教員毎のゼミ形式と個人指導形式による指導をふまえて、博士論文を執筆します。

必修科目「学外実習」は最終年次に履修し単位を取得することが望まれます。履修申請した年度に各自が日本を含む世界の特定地域に赴き、長期の調査を実施します。実施した後、調査報告を作成し、その報告内容に対して、全教員の評価をもって単位認定します。

〈社会福祉学分野〉

1年次には、前期課程における研究を継続して論文を執筆し、さらに学会報告や学会誌への投稿等を目標に掲げて研究を進展させます。前期課程同様、論理的思考力と情報活用力を伸ばします。また、高い倫理観を持ち社会に主体的に関与する責任を自覚し、自ら解決すべき社会福祉問題・課題を見つけていく能動的学習姿勢を培います。

2年次には、演習科目「社会福祉学特別演習」で論文報告が課せられます。これをふまえ、2年次後期から3年次には、最終目標として博士学位論文を仕上げ、課程博士の学位を取得する姿勢を明確化します。後期課程では、学会報告や論文投稿等を通じた研究者育成プログラムが基軸となります。

カリキュラム・マップとツリーは別紙の通りです。

(2) 教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業科目については、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身に付けることができるよう工夫しています。

研究指導については、いずれの分野においても、指導教員を中心とする少人数教育において、各学生はみずからの問題意識を高め、対象についての知識や理解を深めながら研究を行ない、その成果を論文としてまとめていきます。このような緊密な指導体制をとおして、研究対象について考察を進めるほかに、資料の収集・分析の方法、フィールド調査の方法なども学んでいきます。

(3) 学習成果の評価に関する方針

成績評価については試験だけでなく、レポートや授業での発表・報告・議論への参加などによって総合的に判断しています。また、博士前期課程及び博士後期課程において、以下の基準により所定の単位を修得し、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対しては、それぞれ当該課程を修了したものと認め、学位を授与します。

【博士前期課程】

○修士学位論文審査基準

- ①大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、当該大学院の行う修士論文の審査及び試験に合格しなければなりません。
- ②修士論文および同審査においては、当該分野及び隣接諸分野における広い視野に立った精深な学識と、その専攻・分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等

に必要な高度の能力を有することが証明されなければなりません。

【博士後期課程】

○博士学位論文審査基準

- 1 研究テーマが明確である。
- 2 先行研究が十分に検討され、テーマ設定に至るプロセスが示されている。
- 3 論文で用いる方法論が具体的に提示されている。
- 4 研究の素材となる文献、史資料、調査結果などが十分に吟味されている。
- 5 結論に至る議論の展開が十分な論拠に支えられ、論理的である。
- 6 当該分野の学術研究の進展に貢献する、独創性を備えた研究である。
- 7 研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。(データ改竄、捏造、剽窃などの研究不正を行っていないこと)。

| | 基礎科目 | 専門科目 | 修了研究 |
|---------|---|--|---------------------------------|
| 社会学分野 | 学外演習 | 社会学基礎理論研究I、II[社会学基礎理論特論I、II] 社会学基礎理論研究演習I、II[社会学基礎理論特論演習I、II] 都市社会学研究I、II[都市社会学特論I、II] 都市社会学研究演習I、II[都市社会学特論演習I、II] 社会調査法研究I、II[社会調査法特論I、II] 社会調査法研究演習I、II[社会調査法特論演習I、II] 社会問題研究I、II[社会問題特論I、II] 社会問題研究演習I、II[社会問題特論演習I、II] | 修士論文指導、[博士論文指導] |
| 社会人類学分野 | 民族誌学A[民族誌学特論] 民族誌学研究演習I[民族誌学研究演習I] 地域論研究演習I[地域研究特論演習I] 地域論研究演習II[地域研究特論演習II] 学外実習 | 社会人類学第一研究演習I、[社会人類学第一特論演習I] 社会人類学第一研究演習II、[社会人類学第一特論演習II] 文化人類学研究演習I、[文化人類学特論演習I] 文化人類学研究演習II、[文化人類学特論演習II] 社会人類学第二研究演習I、[社会人類学第二特論演習I] 社会人類学第二研究演習II、[社会人類学第二特論演習II] 民俗学研究演習I[民俗学特論演習I] 民俗学研究演習II[民俗学特論演習II] | 修士論文指導 [博士論文指導] 社会人類学総合演習 |
| 社会福祉学分野 | 社会福祉学特別演習 | 社会福祉援助論研究 I・II、社会福祉援助論特論 I・II 社会福祉理論研究 I・II、社会福祉理論特論 I・II 社会福祉制度論研究 I・II、社会福祉制度論特論 I・II 社会福祉問題論研究 I・II、社会福祉問題論特論 I・II | 修士論文指導 博士論文指導 |

専門分野に必要な基礎的な科目

専門分野に対応した発展的な科目

研究論文執筆のための科目

| | | | |
|------------|---|--------------------------------------|--|
| 院生が習得すべき能力 | 社会行動学に関する各分野固有の専門的知識を修得し、研究を通して問題を解決していける能力 | 現代社会に対する鋭い批判的思考力、及び異なる文化・社会に対する深い理解力 | 論理的に思考し、倫理観・社会的責任を自覚しながらコミュニケーションすることのできる高度な能力 |
|------------|---|--------------------------------------|--|